

参加申込

当日の参加も可能ですが、
できるだけ事前参加申込みをお願いします

※インターネットからもお申込みいただけます。
<http://www.niaes.affrc.go.jp/sinfo/sympo/h24/20130122.html>

お名前（必ず記入してください）
（ふりがな）

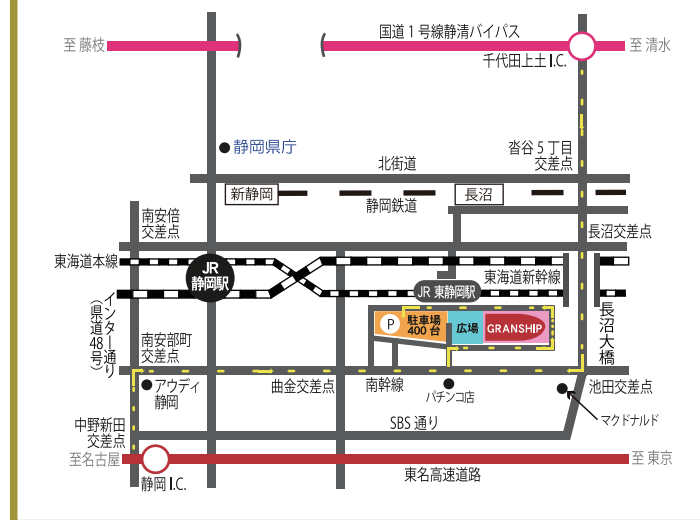
連絡先（必ず記入してください）
[電話・FAX番号、メールアドレスなど]

ご職業（必ず記入してください）
[組織・団体名と部署・役職、あるいは農業者/学生/一般市民などの別]

住所

個人情報の保護について
参加登録の際に記入いただいたお名前、所属、メールアドレスなどの個人情報は、
とくに明記されない限り、このセミナーに関する目的以外には利用しません。

会場案内



静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田 79-4

問い合わせ

静岡県農林技術研究所
企画調整部 専門監 柴田 茂樹
TEL 0538-36-1553 / FAX 0538-37-8466
Email agrikikaku@pref.shizuoka.lg.jp
〒438-0803 静岡県磐田市富丘 678-1

(独)農業環境技術研究所
連携推進室長 川崎 晃
TEL 029-838-8181 / FAX 029-838-8199
Email coord@niaes.affrc.go.jp
〒305-8604 茨城県つくば市観音台 3-1-3

NIAES 農業環境技術公開セミナー in 静岡

生産性と 環境保全を両立する 茶園のエコ管理

参加無料

1月22日(火) 2013年
12:00~17:00



会場：
静岡県コンベンションアーツセンター
グランシップ 10 階会議室

主催：(独)農業環境技術研究所 / 静岡県農林技術研究所
後援：(独)農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所

プログラム

総合司会：(独) 農業環境技術研究所 長谷部 亮 研究統括主幹

13:15

開会あいさつ

(独) 農業環境技術研究所 理事長 宮下 清貴

静岡県経済産業部理事 内野 稔

セッション1

生物多様性を守り、高品質なお茶を生産する茶園管理

座長：静岡県農林技術研究所 茶業研究センター 生産環境科長

松本 昌直

13:30 ～ 14:00

茶園が育む「茶草場」の生物多様性

(独) 農業環境技術研究所 生物多様性研究領域 主任研究員

楠本 良延

14:00 ～ 14:30

静岡県における茶草農法の取組

静岡県農林技術研究所 上席研究員

稲垣 栄洋

14:30 ～ 14:45

休憩（ポスターセッション）

セッション2

環境負荷低減とともに経済性のある茶園施肥管理

座長：(独) 農業環境技術研究所 研究コーディネータ

井手 任

14:45 ～ 15:15

農耕地土壌からの一酸化二窒素発生とその削減

(独) 農業環境技術研究所 物質循環研究領域 主任研究員

秋山 博子

15:15 ～ 15:45

茶園土壌からの一酸化二窒素発生とその削減

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所 研究員

廣野 祐平

15:45 ～ 16:15

長期の施肥削減が茶の収量に及ぼす影響と茶栽培地域
周辺のため池・井戸水の水質推移

静岡県農林技術研究所 茶業研究センター 上席研究員

小杉 徹

16:15 ～ 16:50

総合討議

司会：(独) 農業環境技術研究所 研究統括主幹

長谷部 亮

16:50

閉会あいさつ

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所 茶業研究監

木幡 勝則

(独) 農業環境技術研究所

農業環境技術研究所は、環境中の汚染物質に起因する食の安心・安全の問題を始め、地球環境問題、生物多様性の保全、さらには農業活動に由来する環境負荷物質など、様々な問題に取り組み、その解明と解決に貢献しています。平成23年度からの第3期中期計画（平成27年度まで）では、

1. 地球規模環境変動と農業活動の相互作用に関する研究
2. 地球生態系における生物多様性の変動機構及び生態機能の解明に関する研究
3. 農業生態系における化学物質の動態とリスク低減に関する研究
4. 農業環境インベントリーの高度化とその活用に関する研究

の4つの研究を推進します。

静岡県農林技術研究所

静岡県農林技術研究所は、静岡県経済産業ビジョン（農業・農村編）の基本方針に沿って、農山村のもつ豊かな地域資源を生かした新たなビジネスを創出し、収益性の高い農業経営の構築を目指して、4本の試験研究展開の基本方向：

1. 新たな消費を創出する新品種・新商品の開発
2. 農芸品の優良木材の生産力向上技術の開発
3. 循環型の農林業を構築する技術開発
4. 魅力ある農山村地域の創造と保全に貢献する技術開発

に基づく研究開発を推進します。